

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	創造工学Ⅲ
科目基礎情報						
科目番号	0008		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	創造工学科 (応用化学・生物系共通科目)		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	前期:2 後期:2		
教科書/教材	なし／自作プリント					
担当教員	宇津野 国治, 檜村 奈生, 長尾 昌紀					
到達目標						
【工学基礎教育】自身の専門分野に限らず幅広い工学知識・視野を身につけると共に、自身の専門分野とそれらの知識との関連性について理解を深める。 【キャリア教育】自らの職業観・勤労観を意識した上で自身の将来像について考え、その実現に向けた自己分析できる。 【情報セキュリティ教育】社会や各専門分野において存在するセキュリティリスクを理解できる。 【技術者倫理教育】技術者・企業が社会に対して負っている責任を理解する。 【課題発見型学習】与えられたテーマに対して、専門分野の異なるメンバーと異論を重ねながら、チームとして課題発見および適切なレベル・範囲での課題解決案の創生ができる。 【汎用的技能教育】修得した知識・技術を活かして主体的に情報収集・分析し、他分野の人と協力して議論・課題に取り組むことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
工学基礎教育	自分と異なる専門分野の知識を身につけ、自身の専門分野との関連性についても理解できる。		自分と異なる専門分野の知識を身につけることができる。		自分と異なる専門分野の知識を身につけられない。	
キャリア教育	自身の将来のライフプランや職業観・勤労観を意識し、進路実現のための自己分析ができる。		自らの職業観・勤労観を意識した上で自身の将来像について考えることができる。		自らの職業観・勤労観を意識した上で自身の将来像について考えることができない。	
情報セキュリティ教育	社会や各専門分野において存在するセキュリティリスクを理解できる。		社会や各専門分野において存在するセキュリティリスクを理解できる。		社会や各専門分野において存在するセキュリティリスクを理解できない。	
技術者倫理教育	技術者・企業が社会に対して負っている責任を理解できる。		技術者・企業が社会に対して負っている責任を理解できる。		技術者・企業が社会に対して負っている責任を理解できない。	
課題発見型学習	専門分野の異なるメンバーと異論を重ねながら、チームとして課題発見および適切なレベル・範囲での課題解決案が創生できる。		専門分野の異なるメンバーと異論を重ねながら、チームとして課題発見および課題解決案の創生ができる。		専門分野の異なるメンバーと異論を重ねながら、チームとして課題発見および課題解決案の創生ができない。	
汎用的技能教育	修得した知識・技術を活かして主体的に情報収集・分析し、他分野の人と協力して議論・課題に取り組むことができる。		修得した知識・技術を活かして情報収集・分析し、他分野の人と協力して議論・課題に取り組むことができる。		修得した知識・技術を活かして情報収集・分析し、他分野の人と協力して議論・課題に取り組むことができない。	
学科の到達目標項目との関係						
Ⅰ 人間性 Ⅱ 実践性 Ⅲ 国際性						
教育方法等						
概要	自身の専門分野とは異なる他専門分野に関する演習や実験を通して、幅広い工学的基礎知識・技術・視野を身に付ける。 また、幅広い観点において工学的問題を捉える感覚や、専門分野の異なる人との協働能力を養うことを目的に、各専門系の枠組みを超えた班編成においてグループワークを行う。 上記に加えて、現代社会に必要な情報リテラシー、技術者に必要な倫理観、自身のキャリア形成に必要な能力や態度を身に付けることを目的とする。					
授業の進め方・方法	通常、実験や演習等を毎週行う。 授業は基本的にグループ単位での演習や実験を行う。 前期は、各分野ごとに【課題：80%】【取組み：20%】として100点法で評価する。 後期については【課題：40%】【発表：40%】【取組み：20%】として100点法で評価する。 満点が100点となるように、上記の評価点に重みづけをして合算したものを最終評価点とする。 なお、正当な理由がなく【ICT教育】【他系専門演習Ⅰ】【他系専門演習Ⅱ】【グループワーク】の各分野において60点未満の評価点が付いた場合、全体の評価点を60点未満とする。					
注意点	・欠席する／した場合、必ず演習を担当する担当教員に連絡すること。また、必ず担当教員と面会の上で、欠席時の課題などへの対応について指示を受けること（面会を求める場合、担当教員に対してメールなどにより事前に面会の予約を行うこと）。 ・学習にあたっては、自己のキャリアについて常に意識し、将来の進路選択を行う際の参考にすること。 ・ICT活用能力を高めるため、Blackboardに解答する簡単な小テストやアンケートを課すことがある。 ・授業時間以外も活用して、グループで調査研究や製作活動に取り組むことが必要となる項目もある。 ・グループ学習では、自分の役割を見つけ、グループ活動に積極的に参加すること。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス キャリア教育（キャリア・アンカー）		学習内容を把握する 自分の将来について考えられるように、キャリア・アンカーについて理解し、現時点でのキャリア・デザインを描けるようにする	
		2週	他系専門演習Ⅰ（１）		他系専門内容についての知識を身に付けることができる。	
		3週	他系専門演習Ⅰ（２）		他系専門内容についての知識を身に付けることができる。	

後期	3rdQ	1週	ガイダンス PBL学習（１）：課題テーマに対する講義	後期の学習内容について把握できる 与えられた課題内容について正しく理解できる。	
		2週	PBL学習（２）：課題テーマに関する調査	適切なツールを用いて主体的に情報収集・分析を行うことができる。	
		3週	PBL学習（３）：課題テーマに関する調査	適切なツールを用いて主体的に情報収集・分析を行うことができる。	
		4週	技術者倫理教育	技術者・企業が社会に対して負っている責任を理解する。	
		5週	PBL学習（４）：課題テーマに関するグループディスカッション	修得した知識・技術を活かして主体的に議論を行うことができる。 課題発見・課題解決に、専門分野の異なるメンバーと議論を重ねながら、チームとしての課題解決案を創生できる。	
		6週	PBL学習（５）：課題テーマに関するグループディスカッション	修得した知識・技術を活かして主体的に議論を行うことができる。 課題発見・課題解決に、専門分野の異なるメンバーと議論を重ねながら、チームとしての課題解決案を創生できる。	
		7週	PBL学習（６）：課題テーマに関するグループディスカッション	修得した知識・技術を活かして主体的に議論を行うことができる。 課題発見・課題解決に、専門分野の異なるメンバーと議論を重ねながら、チームとしての課題解決案を創生できる。	
		8週	PBL学習（７）：課題テーマに関するグループディスカッション	修得した知識・技術を活かして主体的に議論を行うことができる。 課題発見・課題解決に、専門分野の異なるメンバーと議論を重ねながら、チームとしての課題解決案を創生できる。	
	4thQ	9週	キャリア教育（ジョブトークⅡ）	自らの職業観・勤労観を意識した上で自身の将来像について考え、その実現に向けた自己分析ができる。 企業活動を様々な観点から捉えることができる。	
		10週	PBL学習（９）：発表準備	適切なレベル・範囲において解決案を創生できる。 言葉・図表などを用いて、主観や常識ではなくデータや情報に基づいた論理的な説明ができる資料を作成できる。	
		11週	PBL学習（１０）：発表準備	言葉・図表などを用いて、主観や常識ではなくデータや情報に基づいた論理的な説明ができる資料を作成できる。	
		12週	PBL学習（１１）：発表準備	言葉・図表などを用いて、主観や常識ではなくデータや情報に基づいた論理的な説明ができる資料を作成できる。	
		13週	PBL学習（１２）：課題解決案に関する発表会	聞き手に分かりやすい、論理的な説明をすることができる。 立場・考え方の異なる教職員と意見交換ができる。	
		14週	PBL学習（１３）：課題解決案の総括・再提案	他者からの意見を踏まえ、自分たちの考えを見直すことができる。	
		15週	ポートフォリオ	自らを省みて、今後の自分の取り組みなどについて考えることができる。	
		16週			
	評価割合				
		課題	発表	取組み	合計
	総合評価割合	60	20	20	100

基礎的能力	20	10	5	35
專門的能力	20	0	5	25
分野横断的能力	20	10	10	40